


～郷土かるたで故郷発見～

諏訪のいろはかるた (7)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた（信濃文化研究会作成）」に詠われたかるたを紹介いたします。




み 明神の恋の通路御神渡

諏訪神社の七不思議の一つに「氷湖の御神渡」がある。厳寒時には諏訪湖は全面結氷し、なお寒気が数日続くと氷の厚さは増して、夜間氷の放熱作用によって収縮し、大きな音を立てて氷に亀裂ができる。さらに日中の気温の上昇によって氷が膨張して、夜間にできた亀裂にそって突き合い重なり、氷の鞍のような盛り上がりができる。これが御神渡である。

伝説には、上社の男神が下社の女神のもとに通われる通い路とか、明神の使途である狐が渡る道筋とか、また蛇体の明神が神渡のあとを長く氷上に印しておくなどといわれている。御神渡は五百年間も観測されて今も続いており、八剋神社の記録は有名である。



ら 落下する天水三粒七不思議

諏訪大社上社の境内に「お天水」があって、これは諏訪七不思議の一つである。「信濃国昔姿」に「天水、神前の北の方に在り此天水と申すは毎日晴雨に限らず一日三滴づつ天より天水下るといふ、日本国中外になし、当社に限るなり。世に唱うるところの大神竜川の総水上なり、早天の年は国々より当社へ願いて彼の天水を迎え降雨を祈るに其の験しなきということなし、わけて近時は遠国より伝え聞いてこの水を迎え奉る人甚だ多し、降雨の後、倍水して返納する也」と書かれていた。宝殿の屋根より、いかなる晴天の日でも必ず三粒の雨が降って、けして乾くことがなく、点滴の井に溜まると言われる。諏訪神社の七不思議にはいろいろあるが、代表的なものをあげると、「元朝の蛙狩」「五穀筒粥」「高野の耳裂鹿」「宝殿天滴」「御作田の早苗」「葛井の清池」「氷湖御神渡」がある。

下諏訪町総務課 ☎27-1111 内線259 FAX28-1070
E-mail jyoho@town.shimosuwa.lg.jp
下諏訪町教育委員会 ☎27-1111内線718 FAX28-0131
E-mail syougai@town.shimosuwa.lg.jp
下諏訪町社会福祉協議会 ☎27-7396 FAX27-0890
ご意見・お写真などをお寄せください

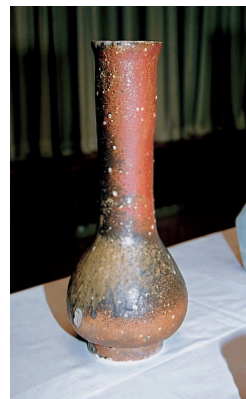


紅葉とれたて



ギャラリー

町民総合文化祭 作品展から



何とかなるさ!

マは宇宙へ行てきます
山崎直子

スペースシャトルで宇宙へ行った山崎飛行士の著書。何とかなるさ!自分に対して常にかけたい言葉だ。素朴な「好き」という気持ち大事にする/目の前にあることを一生懸命やる/がんばることは楽しいこと/予測できないことも楽しむ/ひとつひとつ、やれることをやるう/たくさんの人に支えられていることを忘れない/自分の進んだ道を、精一杯歩こう。まさに「前進しかない」という感じの生き方で、読んでいて勇気づけられる。
(依田 秀人)

今月のおすすめ本
町図書館から

せんたくかあちゃん

福音館書店

洗濯の大好きなかあちゃんがいきました。今日も腕まくりをして、何から何まで洗って干しました。すると、おへそを取りに来た薄汚れた雷様が干し物に絡まりました。「まるで蜘蛛の巣敷だ」と言われたかあちゃん、「ほんとうに生意気な雷だよ」と言うなりこの雷をゴシゴシ洗いました。きれいになって顔まで書き直してもらって大喜びで帰った雷様。これを見て翌日「洗濯してくれ 書き直してくれ」と空から雷様がいつぱい降ってきました。そこでかあちゃん「よしました まかしときい」と。かあちゃんの豪快さと痛快さが感じられるおもしろい一冊です。
(松澤 泉)



12

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	☽

12月の暦 小宮祭
増沢 昭一 作